

令和6年度 利益相反審査委員会の審議一覧・審議内容

○委員会審議：令和6年5月2日

《審議内容》

課題名	筋委縮性側索硬化症患者の歩行期における転倒実態とその予測因子の前向きコホート研究：多施設共同研究
概要	退院後3ヶ月時における転倒の有無を予測するために簡便で臨床的に用いられる機能評価、能力評価の手法から予測指標を探索的に調査することで、筋萎縮性側索硬化症患者において転倒を予測しうるスクリーニング評価を明らかにすること。
判定	問題なし

○委員会審議：令和6年5月2日

《審議内容》

課題名	神経・筋疾患の診断、治療に関する後ろ向き観察研究
概要	神経内科領域の診療には近年めざましい進歩がみられるものの、未だ診断法や治療法が確立していない疾患が数多く存在する。当院では、臨床上の必要から行われた各種の検査および治療に関する診療情報が記録・保存されており、これらの診療情報を後ろ向きに解析することで、神経・筋疾患に関する臨床的ないし学術的に有用な情報が得られ、診断法の確立や治療法の開発に寄与することが期待される。
判定	問題なし

○委員会審議：令和6年5月14日

《審議内容》

課題名	流涎を呈する神経変性疾患患者に対するスポコラミン軟膏による唾液分泌抑制効果の検討
概要	流涎のために日常生活に支障を来している筋委縮症側索硬化症等の神経変性疾患患者に、5%スポコラミン軟膏を両耳介後部乳様突起部に塗布することにより、唾液分泌の抑制効果があったと報告がなされている。当院でも流涎を呈する神経変性疾患患者を診療する機会は多く、その効果を検証する。
判定	問題なし

○委員会審議：令和6年5月14日

《審議内容》

課題名	HALの標準的長期使用法確率のための多施設共同観察研究・実態調査
概要	医療機関におけるHALのリアルワールドでの使用実態を調査し、疾患毎の長期の有用性に関わる疾患修飾薬使用のタイミング、HALの最適な使用頻度及びその他のパラメータを検討し、長期の有効性を最大化する標準的使用法を明らかにする。
判定	問題なし